

| | | | |
|---|--|------------|----------|
| 1. 科目名(単位数) | 専門演習 I B (援助技術・実践研究) (2 単位) | 3. 科目番号 | SSMP5202 |
| 2. 授業担当教員 | 【池袋】先崎 章、田代 幹康、水島 正浩、三野 宏治、加藤 洋子 【名古屋】伊東 眞理子、先崎 章、田代 幹康、三野 宏治、加藤 洋子 | | |
| 4. 授業形態 | 演習 | 5. 開講学期 | 通年 |
| 6. 履修条件・他科目との関係 | 履修条件は特になし | 履修形態(通信教育) | |
| 7. 講義概要 | 専門演習は、各研究分野ごとに、教員がチームティーチングで担当する科目である。専門演習 I では、受講者がこれから研究を進めていくための基礎を作るため、各研究分野についての幅広い理解とともに、研究の方法論についても、実践的に理解してもらうことを目的とする。受講者には、授業内で提示される課題に積極的に取り組み、自らの研究能力を高めていくことが求められる。 | | |
| 8. 学習目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・研究テーマに関連する援助についての理念や技術について理解し、自ら説明することができる。 ・これまでの研究の蓄積から学んだことを基にして、自らの研究計画を立てることができる。 | | |
| 9. アサインメント(宿題)及びレポート課題 | 授業内で指示する。 | | |
| 10. 教科書・参考書・教材 | 【教科書】指定しない 【参考書】授業内で伝える | | |
| 11. 成績評価の規準と評定の方法 | ○成績評価の規準 「8. 学習目標」を達成することができたかどうかを基準に判断する ○評定の方法 授業内での課題への取り組み 50% 自らの研究についての授業での発表 50% | | |
| 12. 受講生へのメッセージ | 児童、障害者、高齢者などの領域の研究論文を作成する予定の人に受講をしてほしい。5人の教員が6回ずつ担当して行く。 | | |
| 13. オフィスアワー | 各教員が授業内で知らせる | | |
| 14. 学習の展開及び内容【テーマ、学習の目標、学習の内容、キーワード、学習の課題、学習する上でのポイント等】 | | | |
| 1. テーマ | 社会福祉への理解(水島、伊東) | | |
| 【学習の目標】 | 社会福祉の概念について分かる。 | | |
| 【学習の内容】 | 社会や社会システムへの理解 | | |
| 【キーワード】 | システム(社会・組織・グループ・家族・個人)の機能、開放的・閉鎖的システムの発達 | | |
| 【学習の課題】 | 社会福祉の包括性、学制間・多職種間との協力などの内容と方法について考えてみる。 | | |
| 【参考文献】 | 平山尚外(2000)、「人間の行動と社会環境」、とレジュメ | | |
| 【学習する上での留意点】 | 社会福祉を理論や抽象的概念として覚えるので、社会福祉の持つ実践的・実用的・複合的な面を含んだ包括的な概念として理解できるように指導する。 | | |
| 2. テーマ | 社会福祉援助・実践への理解(水島、伊東) | | |
| 【学習の目標】 | 社会福祉援助・実践に関して理解する。 | | |
| 【学習の内容】 | 人間の行動と環境に関する理解を深め、人間の問題との関連性から対処方法が探索できるように働きかける。 | | |
| 【キーワード】 | 人間の行動・環境、人間の問題・環境の問題、家族の中の個人の問題、グループの中の個人の問題、組織の中の個人の問題、地域の中の個人の問題、環境の中の個人の問題 | | |
| 【学習の課題】 | 今まで、周りの人々の生活や経験などと顧みて、解決策が見つかりにくいと思った問題について探索する。 | | |
| 【参考文献】 | 洪金子外(2000)、「人間の行動と社会環境」、高憲出版社とレジュメ | | |
| 3. テーマ | 社会福祉援助・実践対象と分野への理解(水島、伊東) | | |
| 【学習の目標】 | 社会福祉援助・実践の対象と分野について理解する。 | | |
| 【学習の内容】 | 社会福祉援助・実践の対象について理解して、それぞれの対象に社会福祉援助・実践が適用できる。 | | |
| 【キーワード】 | 対象者の特徴、対象者と関連法律、制度・政策など | | |
| 【学習の課題】 | 貧困者・低所得者、児童、青少年、高齢者など社会福祉対象者の特徴や医療・スクールソーシャルワークなどの社会福祉分野について理解し、彼らを対象とする援助技術やその使い方について概略的に学習する。 | | |
| 【参考文献】 | ワークショップ資料とレジュメ | | |
| 【学習する上での留意点】 | 人間の成長とともに変わっていく発達段階と課題について連続性を持って考えるように指導する。 | | |
| 4. テーマ | 社会福祉援助・実践の基本的な技術(水島、伊東) | | |
| 【学習の目標】 | 社会福祉援助・実践領域について分かり、それぞれの領域に社会福祉援助・実践が適用できる。 | | |
| 【学習の内容】 | 社会福祉援助・実践の基本的な技術である面接技法について学ぶ。 | | |
| 【キーワード】 | 面接(構造化面接・半構造化面接)、積極的傾聴 | | |
| 【学習の課題】 | 面接(構造化面接・半構造化面接)、積極的傾聴 | | |
| 【参考文献】 | 洪金子外(2006)社会福祉実践論、同仁出版社 | | |
| 【学習する上での留意点】 | 社会福祉援助・実践の基本技術は、かなりの実践経験と経歴を積みながら成熟していくことを肝に銘じて、常時、利用者中心の実践になるように気を使うこと。 | | |
| 5. テーマ | 社会福祉の基本的理念と関わる研究とその方法 I (水島、伊東) | | |
| 【学習の目標】 | 社会福祉の基本的理念と関わる研究とその方法について学習する。 | | |
| 【学習の内容】 | 社会福祉の理念・価値・倫理に関する先行研究や論文を選んで発表した後ディスカッションする。 | | |
| 【キーワード】 | 社会福祉の理念・価値・倫理 | | |

| | |
|---|-------------------------------------|
| <p>【学習の課題】 社会福祉の主な価値ディレンマについて調べる。日本社会福祉士会の倫理綱領及び日本学術振興会の研究倫理コースについて熟知する。</p> <p>【参考文献】 大学院生の先行論文の発表資料</p> <p>【学習する上での留意点】 5回目の授業では、現場で働くとき、実践するとき、基礎になることを覚えるようにする。</p> | |
| <p>6. テーマ</p> | <p>社会福祉援助・実践と関わる研究とその方法Ⅱ（水島、伊東）</p> |
| <p>【学習の目標】 社会福祉援助・実践と関わる研究とその方法について学習する。</p> <p>【学習の内容】 社会福祉の援助・実践に関する先行研究や論文を選んで発表した後ディスカッションする。</p> <p>【キーワード】 プライバシーの尊重、臨床研究の特徴、Informed Consent</p> <p>【学習の課題】 臨床研究に求められる Informed Consent Form を作成してみる。</p> <p>【参考文献】 大学院生の先行論文の発表資料</p> <p>【学習する上での留意点】 社会福祉理論と社会福祉援助・実践の研究が別々のことでなく、相互補完的に行うべきことであることを覚えるように指導する。</p> | |
| <p>7. テーマ</p> | <p>ノーマライゼーションの理念、実践方法①（田代）</p> |
| <p>【学習の目標】 ノーマライゼーションの理念の歴史の変遷と理念のいくつかの視点について学ぶ。</p> <p>【学習の内容】 (1) ノーマライゼーションの歴史の変遷 (2) ノーマライゼーションの視点(北欧型・北アメリカ型)</p> <p>【キーワード】 ノーマライゼーション、ノーマライゼーションの8つの要因、脱施設化、Social Role Valorization</p> <p>【学習の課題】 (1) ノーマライゼーションの歴史的展開の概要についてまとめる。 (2) 北欧型・北アメリカ型のノーマライゼーションの相違点について検討する。</p> <p>【参考文献】 ①小田兼三、宮川数君編 『社会福祉援助技術論』 第2版 勁草書房 2010 ②小田兼三 杉本敏夫編 『社会福祉概論 -現代社会と福祉-』 第4版 勁草書房 2016 ③田代幹康、シシリア・ロボス訳・著 『スウェーデン、ノーマライゼーションへの道』 現代書館、2007年 ④田代幹康、C.ロボス 訳・著 『スウェーデン発、知的障害のある人の生活支援ハンドブック』ミネルヴァ書房 2011年</p> <p>【学習する上での留意点】 学生による発表と討論を通じて学習を進めるので事前に関連する文献を収集・分析し、資料の作成を行う。</p> | |
| <p>8. テーマ</p> | <p>ノーマライゼーションの理念、実践方法②（田代）</p> |
| <p>【学習の目標】 スウェーデンにおけるノーマライゼーションの歴史的展開と実践方法について学ぶ。</p> <p>【学習の内容】 (1) ノーマライゼーションの視点(北欧型) (2) スウェーデンにおける脱施設化とコミュニティワークについての検討</p> <p>【キーワード】 施設解体、脱施設化</p> <p>【学習の課題】 (1) 脱施設化とコミュニティワークの手法について考察する。</p> <p>【参考文献】 ①小田兼三、宮川数君編 『社会福祉援助技術論』 第2版 勁草書房 2010 ②小田兼三 杉本敏夫編 『社会福祉概論 -現代社会と福祉-』 第4版 勁草書房 2016 ③田代幹康、シシリア・ロボス訳・著 『スウェーデン、ノーマライゼーションへの道』 現代書館、2007年 ④田代幹康、C.ロボス 訳・著 『スウェーデン発、知的障害のある人の生活支援ハンドブック』ミネルヴァ書房 2011年</p> <p>【学習する上での留意点】 学生による発表と討論を通じて学習を進めるので事前に関連する文献を収集・分析し、資料の作成を行う。</p> | |
| <p>9. テーマ</p> | <p>コミュニティワークの理論と実践方法①（田代）</p> |
| <p>【学習の目標】 コミュニティワークの主要な理論・視点について学び、地域での展開方法について検討する。</p> <p>【学習の内容】 (1) コミュニティワークの歴史の変遷 (2) コミュニティワークの理論・視点</p> <p>【キーワード】 コミュニティワーク、COS、セツルメント、ニーズ・資源調整説、インターグループワーク説、地域組織化説</p> <p>【学習の課題】 (1) コミュニティワークの歴史の変遷についてまとめる。 (2) コミュニティワークの主要な理論・視点について整理する。</p> <p>【参考文献】 ①小田兼三、宮川数君編 『社会福祉援助技術論』 第2版 勁草書房 2010 ②小田兼三 杉本敏夫編 『社会福祉概論 -現代社会と福祉-』 第4版 勁草書房 2016 ③田代幹康、シシリア・ロボス訳・著 『スウェーデン、ノーマライゼーションへの道』 現代書館、2007年 ④田代幹康、C.ロボス 訳・著 『スウェーデン発、知的障害のある人の生活支援ハンドブック』ミネルヴァ書房 2011年</p> <p>【学習する上での留意点】 学生による発表と討論を通じて学習を進めるので事前に関連する文献を収集・分析し、資料の作成を行う。</p> | |
| <p>10. テーマ</p> | <p>コミュニティワークの理論と実践方法②（田代）</p> |
| <p>【学習の目標】 コミュニティワークの手法・実践方法を演習を通じて理解する。</p> <p>【学習の内容】 (1) 地域におけるコミュニティワークの実践例の方法</p> <p>【キーワード】 アウトリーチ、地域診断、コミュニティ分析</p> <p>【学習の課題】 (2) 地域におけるコミュニティワークの実践例について調査し、発表する。</p> <p>【参考文献】 ①小田兼三、宮川数君編 『社会福祉援助技術論』 第2版 勁草書房 2010 ②小田兼三 杉本敏夫編 『社会福祉概論 -現代社会と福祉-』 第4版 勁草書房 2016 ③田代幹康、シシリア・ロボス訳・著 『スウェーデン、ノーマライゼーションへの道』 現代書館、2007年 ④田代幹康、C.ロボス 訳・著 『スウェーデン発、知的障害のある人の生活支援ハンドブック』ミネルヴァ書房 2011年</p> <p>【学習する上での留意点】 学生による発表と討論を通じて学習を進めるので事前に関連する文献を収集・分析し、資料の作成を行う。</p> | |
| <p>11. テーマ</p> | <p>エコロジカルアプローチと実践方法①（田代）</p> |
| <p>【学習の目標】 エコロジカルアプローチについて理解し、その支援方法について検討する。</p> <p>【学習の内容】 エコロジカル理論の概念</p> | |

| | |
|--------------|---|
| 【キーワード】 | ジャーメイン、ジェルグラム、エコマップ |
| 【学習の課題】 | エコロジカル理論の概念を学びその内容を理解し発表する。 |
| 【参考文献】 | ①小田兼三、宮川数君編 『社会福祉援助技術論』 第2版 勁草書房 2010 ②小田兼三 杉本敏夫編 『社会福祉概論 -現代社会と福祉-』 第4版 勁草書房 2016 ③田代幹康、シシリア・ロボス訳・著 『スウェーデン、ノーマライゼーションへの道』 現代書館、2007年 ④田代幹康、C.ロボス 訳・著 『スウェーデン発、知的障害のある人の生活支援ハンドブック』 ミネルヴァ書房 2011年 |
| 【学習する上での留意点】 | 学生による発表と討論を通じて学習を進めるので事前に関連する文献を収集・分析し、資料の作成を行う。 |
| 12. テーマ | エコロジカルアプローチと実践方法② (田代) |
| 【学習の目標】 | エコロジカルアプローチにもとづく事例を通してその支援・実践方法について検討する。 |
| 【学習の内容】 | (1)アセスメントについて (2)支援方法・アプローチについて (3)事例から実践を考える。 |
| 【キーワード】 | ライフモデル、ストレスサー |
| 【学習の課題】 | 事例を通じて実践方法について検討する。 |
| 【参考文献】 | ①小田兼三、宮川数君編 『社会福祉援助技術論』 第2版 勁草書房 2010 ②小田兼三 杉本敏夫編 『社会福祉概論 -現代社会と福祉-』 第4版 勁草書房 2016 ③田代幹康、シシリア・ロボス訳・著 『スウェーデン、ノーマライゼーションへの道』 現代書館、2007年 |
| 【学習する上での留意点】 | 学生による発表と討論を通じて学習を進めるので事前に関連する文献を収集・分析し、資料の作成を行う。 |
| 13. テーマ | 障害者の支援と研究 (身体障害者) (先崎) |
| 【学習の目標】 | 身体障害者 (脳卒中、外傷性脳損傷) の事例を通してその支援、実践方法および研究について検討する。 |
| 【学習の内容】 | (1) アセスメントについて (2) 支援方法・アプローチについて (3) 事例から実践を考える。 (4) 実践を症例研究とするためにどのような視点をもつべきか |
| 【キーワード】 | リハビリテーション、障害の受容、障害への適応 |
| 【学習の課題】 | 事例を通じて実践方法について検討する。 |
| 【参考文献】 | 先崎章『精神医学・神経心理学的対応 リハビリテーション』 医歯薬出版 2011年 |
| 【学習する上での留意点】 | 学生による発表と討論も交えて学習を進める予定である。 |
| 14. テーマ | 障害者の支援と研究 (精神障害者) (先崎) |
| 【学習の目標】 | 身体障害者と精神障害の合併事例を通してその支援、実践方法および研究について検討する。 |
| 【学習の内容】 | (1) アセスメントについて (2) 支援方法・アプローチについて (3) 事例から実践を考える。 (4) 実践を症例研究とするためにどのような視点をもつべきか |
| 【キーワード】 | 自殺未遂、偏見、地域での生活 |
| 【学習の課題】 | 事例を通じて実践方法について検討する。 |
| 【参考文献】 | 先崎章『精神医学・神経心理学的対応 リハビリテーション』 医歯薬出版 2011年 |
| 【学習する上での留意点】 | 学生による発表と討論も交えて学習を進める予定である。 |
| 15. テーマ | 高齢者 (含む認知症者) や脳損傷者とその家族支援 (先崎) |
| 【学習の目標】 | 高齢者、認知症者、脳損傷者 (高次脳機能障害) の事例を通してその支援、実践方法および研究について検討する。 |
| 【学習の内容】 | (1) 医療側の視点、社会福祉の視点について (2) 医療的アプローチ、社会福祉的アプローチの違いについて (3) 事例から実践を考える。 (4) 実践を症例研究とするためにどのような視点をもつべきか |
| 【キーワード】 | アルツハイマー型認知症、脳血管性認知症、外傷性脳損傷、脳卒中、地域包括ケアシステム |
| 【学習の課題】 | 事例を通じて実践方法について検討する。 |
| 【参考文献】 | 森本榮 編『高齢者の理学療法 第2版』 三輪書店 2011年 日本認知症ケア学会編『改訂5版 認知症ケアの実際Ⅱ各論』 ワールドプランニング 2016年 先崎章『高次脳機能障害 精神医学・心理学的対応ポケットマニュアル』 医歯薬出版 2009年 |
| 【学習する上での留意点】 | 学生による発表と討論も交えて学習を進める予定である。 |
| 16. テーマ | 精神障害者へのスティグマ、偏見についての研究から学ぶこと (これまでのエビデンス) (先崎) |
| 【学習の目標】 | 精神障害者へのスティグマ、偏見についての研究から、支援・援助の実践をどう行うべきなのかを検討する。 |
| 【学習の内容】 | 精神障害者へのスティグマ、偏見の本質はなにか、これまで各国でどのような研究がなされてきたか |
| 【キーワード】 | エビデンス、スティグマ、機会主義、社会統制 |
| 【学習の課題】 | 過去の精神障害者へのスティグマ、偏見についての研究を通して、自身が持つスティグマを点検する。 |
| 【参考文献】 | ノーマン・サルトリウスら著『パラダイム・ロスト』 中央法規 2015年 (先崎章訳 第6章7章、スティグマ経験についての質問票) |
| 【学習する上での留意点】 | 学生による発表と討論も交えて学習を進める予定である。 |
| 17. テーマ | 精神障害者(障害者一般)へのスティグマ、偏見についての研究から学ぶこと(今後の支援や研究の在り方) (先崎) |
| 【学習の目標】 | 障害者へのスティグマ、偏見についての研究から、支援・援助の実践と研究をどう行うべきなのかを検討する。 |
| 【学習の内容】 | 今後、障害者へのスティグマ、偏見について実践・研究を行うときにどのような方法があり、視点を持つべきか |
| 【キーワード】 | スティグマ、機会主義、社会統制、克服するプログラム、マスメディア |
| 【学習の課題】 | 過去の精神障害者へのスティグマ、偏見についての研究を通して、当事者を支援する研究の在り方を学ぶ。 |

| | |
|--------------|---|
| 【参考文献】 | ノーマン・サルトリウスら著『パラダイム・ロスト』中央法規 2015年 (先崎章訳 第6章7章、スティグマ経験についての質問票) |
| 【学習する上での留意点】 | 学生による発表と討論も交えて学習を進める予定である。 |
| 18. テーマ | 医療・保健分野の支援・研究手法を社会福祉分野の支援・研究に生かす (先崎) |
| 【学習の目標】 | 社会福祉分野の研究手法と医療・保健分野の研究手法とは共通する点、異なる点とがある。共通する点を中心に学習する。医療保健や福祉現場の経験を動機に、どのように支援を行い、さらに調査・研究計画を立てるか、そのためには、どのような知識や方法論やスキルが必要か。 |
| 【学習の内容】 | 「研究入門」「論文に多用される多変量解析法」「健康関連 QOL 評価法」(出典については以下の参考文献)の内容を初心者にもわかりやすく学習していく。各受講者の興味、研究題材に沿って話題を展開していく。 |
| 【キーワード】 | 「研究入門」研究プロセス、仮説生成、仮説検証、研究デザイン、研究力、先行研究、研究の質、選択バイアス、測定バイアス、新規性(オリジナリティ)、実現可能性、研究倫理、臨床研究、実践研究、研究構想、研究計画書、エビデンスレベル、原著論文の構成、背景と目的、研究課題と仮説、対象と方法、横断研究、縦断研究、観察研究、介入研究、質的研究、量的研究、信頼性と妥当性、標準化尺度、順序尺度、間隔尺度、カテゴリー、データ収集、プロトコール、多変量解析、因果関係、プログラム評価。「統計解析」各種解析方法。 |
| 【学習の課題】 | 「健康関連 QOL 評価法」SF-36、SF-12、SF-8、SIP、WHOQOL、RDQ、ODI、DASH、QOL-AD、QOL-C30、QOL-C15、DQoL、QLDJ、CHART、CIQ |
| 【参考文献】 | 各受講者の支援スキルをアップさせて同時に研究論文にするためには、どのような方法論やスキルが必要か。 |
| 【参考文献】 | 雑誌「総合リハビリテーション」(医学書院)2016年号1月号～12月号に連載された「研究入門」近藤克則氏執筆。同、「論文に多用される多変量解析法」奥田千恵子氏執筆。同、「健康関連 QOL 評価法」鈴嶋よしみ氏および田中尚文氏執筆。 |
| 【学習する上での留意点】 | 学生による発表と討論も交えて学習を進める予定である。 |
| 19. テーマ | 障害の種類や程度、個々に異なる配慮事項(加藤) |
| 【学習の目標】 | 障害や慢性疾患の様々な種類、程度、個々に異なる治療法や配慮事項、就学、就労について概観する。 |
| 【学習の内容】 | 障害には多くの種類とその程度、合併症があり、年齢によっても変遷することを具体的事例によって学ぶ。 |
| 【キーワード】 | ICD-11、DSM-5、知的障害、肢体不自由、感覚障害(視覚・聴覚)、重症心身障害児、発達障害、小児慢性特定疾病 |
| 【学習の課題】 | 興味をもった障害や慢性疾患について、その治療法や配慮事項、関連する福祉制度について調べて授業に臨む。 |
| 【参考文献】 | アローウィン『発達障害の理解と支援』(DVD教材)2008 |
| 【学習する上での留意点】 | 障害者の生活上の不便についてできるだけ具体的に想像すること。 |
| 20. テーマ | 障害のある子どもを支える福祉と医療・教育との連携(加藤) |
| 【学習の目標】 | 障害福祉サービスにおける大人と子どもの違い、特別支援教育制度やインクルーシブ教育と関係の概要を知る。 |
| 【学習の内容】 | 障害児を対象とした福祉制度、特別支援教育の成り立ち、インクルーシブ教育の理念と実際、 |
| 【キーワード】 | 障害者総合支援法、児童福祉法、児童発達支援、放課後等デイサービス、サランカカ声明、ウォーノック報告。 |
| 【学習の課題】 | 家庭と教育と福祉の連携が求められる背景やその必然性に関心を持つこと。 |
| 【参考文献】 | メアリーウォーノック『イギリス 特別なニーズ教育の新たな視点』 |
| 【学習する上での留意点】 | 「障害者の権利に関する条約」の理念と教育・福祉の実際との関連を常に考えましょう。 |
| 21. テーマ | 障害のある子どもへの心理・教育的アプローチ(加藤) |
| 【学習の目標】 | 障害のある子どもへの心理・教育的アセスメントの方法及び研究との関連を理解する。 |
| 【学習の内容】 | 定型発達の順序性を踏まえて障害のある子どもの発達を概観し、発達アセスメントの基礎を知る。 |
| 【キーワード】 | こころ、認知、診断、実態評価、質的調査、量的調査、実践研究、行動評価尺度、研究倫理 |
| 【学習の課題】 | 実態記述の諸側面(診断・評価・定義・尺度)、比較対照群の設定、倫理的配慮 |
| 【参考文献】 | 津守・稲毛(磯部)乳幼児精神発達診断法、WISC 知能検査、Vineland 適応行動尺度 |
| 【学習する上での留意点】 | 自己表現の困難な対象の「こころ」の捉え方を学習しましょう。 |
| 22. テーマ | アセスメントから個別支援計画へ(加藤) |
| 【学習の目標】 | 子どもを例に、障害者を対象とした個別の支援計画作成についての基礎知識を学ぶ。 |
| 【学習の内容】 | 行動観察及び発達評価を含むアセスメント、個別支援計画の作成への手順 |
| 【キーワード】 | アセスメント、発達評価、個別支援計画、児童発達支援、放課後等デイサービス、特別支援学校 |
| 【学習の課題】 | キーワードの意味やその理念を調べ、授業での発表を通してその詳細を確認する。 |
| 【参考文献】 | 日本相談支援専門員協会編『障害のある子の支援計画作成事例集』中央法規 2016 |
| 【学習する上での留意点】 | 就学前の幼児や学童においては、相談支援から療育や福祉サービスにつなぐ過程における発達評価の意義を考えながら授業に臨んでください。 |
| 23. テーマ | 行動援護の判定と行動障害への対応(加藤) |
| 【学習の目標】 | 行動援護(強度行動障害)の歴史と背景、取り組みの実際を知る。 |
| 【学習の内容】 | 障害者療法支援法の中の行動援護の位置づけ、支援のしくみと実際 |
| 【キーワード】 | 行動援護、強度行動障害、障害者総合支援法 |
| 【学習の課題】 | 行動援護の必要な人々の生活課題や支援者に必要な要件について調べておく。 |
| 【参考文献】 | 国立知的障害者施設のぞみの園『強度行動障害支援者養成研修』テキスト |
| 【学習する上での留意点】 | 自閉スペクトラム症、知的障害、精神障害と関連づけながら学ぶこと。 |
| 24. テーマ | 障害児を支えるテクノロジー(加藤) |
| 【学習の目標】 | 障害児を支える情報伝達システムや支援機器について知る。 |
| 【学習の内容】 | 障害の種類や程度、年齢、また、合併症の有無により、個々を支えるテクノロジーも多岐にわたることを学ぶ。 |
| 【キーワード】 | ICT、IoT、介護ロボット、車椅子、音声伝達システム |
| 【学習の課題】 | ICT、IoT、介護ロボットを含めて具体的にどのような支援方法があるのか調べる。 |

| | |
|--------------|---|
| 【参考文献】 | 坂村健『IoTとは何か 技術革新から社会革新へ』角川新書 2016 |
| 【学習する上での留意点】 | 近年、福祉の現場ではテクノロジーの活用により、ネットワークの拡大や人手不足を補う動きが進んでおり、情報弱者と活用者との格差が広がりつつあることを念頭に、未来志向で様々な支援手段を学んでください。 |
| 25. テーマ | オリエンテーション、論文作成における研究上の問い (Research Question) の重要性 (三野) |
| 【学習の目標】 | 25回~30回まで6回の講義内容を理解し、自分の課題意識を明確にする。 |
| 【学習の内容】 | 受講者の福祉に関する疑問について話し合い、次回からのレジュメ作成と、発表の役割分担を決める。 |
| 【キーワード】 | 研究論文 研究上の問い (Research Question) 障害者福祉 |
| 【学習の課題】 | 自己紹介の中で、自分がこれまで学んできたこと、関心を持っていることなどを報告し、問題意識を明確にする。発表の分担もするので、現時点で自分の関心の高いものについて考えておく。 |
| 【参考文献】 | 研究論文作成に関する参考図書 |
| 【学習する上での留意点】 | 受講者自身のもつ障害者のイメージ、疑問に感じていることを事前に考えてくる。 |
| 26. テーマ | 障害者の生活のしづらさと支援 (三野) |
| 【学習の目標】 | 障害のある人の生活の実態、何に困っているのか、どのような支援が求められているのかを理解する。 |
| 【学習の内容】 | 疑問に感じたことを明らかにするという意識を持ち、生活のしづらさを考える。 |
| 【キーワード】 | 生活のしづらさ 地域生活支援 チーム支援 |
| 【学習の課題】 | 発表者はレジュメを作成し報告を行う。他の人も予備学習をした上で参加すること。 |
| 【参考文献】 | 「平成23年生活のしづらさなどに関する調査 (全国在宅障害児・者等実態調査)」厚生労働省 |
| 【学習する上での留意点】 | 報告者の発表を聞いたうえで、積極的に質問し討論に加わることが求められる。 |
| 27. テーマ | 障害者を支援する際の理念・価値 (ノーマライゼーション、生活の質: QOL) (三野) |
| 【学習の目標】 | ノーマライゼーションおよび生活の質全般を理解した上で、障害者の現状と課題を知る。 |
| 【学習の内容】 | 障害者の処遇の歴史や現状と課題を検討し、ノーマライゼーションや生活の質について考える。 |
| 【キーワード】 | 社会的排除 偏見 ノーマライゼーション 生活の質 (QOL) |
| 【学習の課題】 | 発表者はレジュメを作成し報告を行う。他の人も予備学習をした上で参加すること。 |
| 【参考文献】 | このテーマに関する参考図書を各自読んでくること |
| 【学習する上での留意点】 | 報告者の発表を聞いたうえで、積極的に質問し討論に加わることが求められる。 |
| 28. テーマ | 医学モデルと社会モデル、リカバリー (三野) |
| 【学習の目標】 | 医学モデルと社会モデル、リカバリーについて理解し、他の人に説明できる。 |
| 【学習の内容】 | 具体的な事例をもとに、障害の捉え方および支援のあり方を考える。 |
| 【キーワード】 | 国際障害分類 (ICIDH)、国際機能分類 (ICF)、リカバリー |
| 【学習の課題】 | 発表者はレジュメを作成し、報告を行う。他の人も事前学習をした上で参加すること。 |
| 【参考文献】 | 「五体不満足」乙武洋匡 (講談社 1998) 「医学モデルから脱却しよう」原昌平 (CLAIRIERE, 2013) ※授業内配布 |
| 【学習する上での留意点】 | 報告者の発表を聞いたうえで、積極的に質問し討論に加わることが求められる。 |
| 29. テーマ | 精神保健医療福祉における調査研究、Evidence-Based Practice (科学的根拠に基づく支援) とは (三野) |
| 【学習の目標】 | 精神保健医療福祉領域における調査研究の歴史と現状と Evidence-Based Practice について理解する。 |
| 【キーワード】 | Evidence-Based Medicine、 Evidence-Based Practice |
| 【学習の課題】 | 発表者はレジュメを作成し、報告を行う。他の人も事前学習をした上で参加すること。 |
| 【参考文献】 | 『科学的根拠に基づく実践プログラム (EBP; Evidence-Based Practices)』日本精神障害者リハビリテーション学会 |
| 【学習する上での留意点】 | 報告者の発表を聞いたうえで、積極的に質問し討論に加わることが求められる。 |
| 30. テーマ | 受講生の研究について、現段階の構想を発表する (三野) |
| 【学習の目標】 | 自分の研究について発表することに加えて他の人の研究について関心を持ち、質問やコメントをできる。 |
| 【学習の内容】 | 全員がレジュメを作成し、報告を行う。 |
| 【キーワード】 | 研究上の問い (Research Question) 研究の目的 仮説 仮説検証の方法 |
| 【学習の課題】 | 全員がレジュメを作成し、報告を行う。 |
| 【参考文献】 | 研究論文作成に関する参考図書 |
| 【学習する上での留意点】 | 報告者の発表を聞いたうえで、積極的に質問し討論に加わることが求められる。 |